



FirePro™ 3D Graphics Accelerators Case Study | スタジオエッグマン株式会社



スタジオエッグマンは小坂徹氏のプライベートカンパニーである。自身が制作する作品のほか、CADのデータからカタログなどに使用するビジュアル制作を行うことを得意としている。CADのデータは設計図であり、そこには色彩や質感などのディテールはない。そこに息を吹き込むのが小坂氏の仕事だ。実際作品を見せていただいて驚くのはその生々しさである。無機質な中にもしっとりとした質感のあるものや硬質で鋭利なシャープさを感じるものなど様々だが、どれもが実物以上に実物らしい存在感がある。人がモノを認識するのは目で見たものを過去の経験や知識、記憶などを通して知覚するからで、そこにはいかにもそれらしいしさやそうであってほしいといった無意識の欲求も含まれてくる。例えばステーキや苺のような食べ物では、いかにも美味しそうな色や形といったものが人それぞれ存在し、そうした琴線に触れることができるか否かがコマーシャルの世界では重要になる。小坂氏はCGをツールとしてこうしたシズル感を表現するクリエイターだが、最初からCGを手がけていたわけではなく、CG以前はアナログ写真合成をしていたという。ポスターやカタログなどのいわゆる商業写真は、印刷の特性に合わせた修正だけでなく、複数の写真を合成するという作業もある。例えばカメラの写真では通常カメラそのものとレンズの映り込みは別撮りして合成する。更に背景なども合成することも多い。こうした作業を手作業で行っていた時代である。その後コンピュータが導入され、印刷所などでは何千万もする専用機が導入され始めたが、MacとPhotoshopでもそれなりのことが行えるようになり、現在のCG制作へとつながっていったという。



HIGHCAS : Copyright Toru KOSAKA All rights reserved. (モデリング: Rhino/レンダリング: Maxwell)

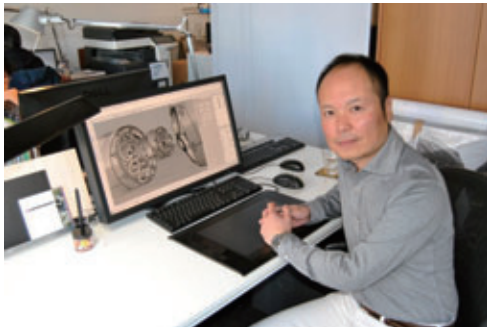


Worm-e : Copyright Toru KOSAKA All rights reserved.

◀ Worm-e :

Rhinoでモデリング、Hayabusaでレンダリング・アニメーション
<http://www.applcraft.com>

・デザイナー Jorge Biosca氏
<http://www.jorgebiosca.com>
・レンダリング・アニメーション 小坂氏
<http://www.studioeggman.com>



お話を伺った「スタジオエッグマン株式会社」小坂徹氏。デジタルモデリング、レンダリング、撮影、画像処理全般といったデジタルイメージ制作からプロダクトデザイン、オリジナルアート企画、制作、販売などを行っている。問 東京都港区芝浦4-12-35ラティス芝浦212 / info@studioeggman.com



左のZ620にAutodesk 3ds MaxとFirePro V7900がインストールされている。右のZ800はレンダリング用のマシン。非常にコンパクトかつシズルなシステムである。

「いかに効率的に作業が行えるかが大きなポイントになりますね。制作中の試行錯誤もそうですが、提案後、フィードバックもありますから。クライアントやデザイナーからの注文や修正に自分なりのアイデアを盛り込みながら作業をするのですが、カタログなどは発行する時期がほしいみんな同じですから。複数の作業を同時進行することになります。グラフィックボードもそうですが、作業を行う環境はシンプルで作業効率の良いものが求められます。」

現在の作業環境はHPのPCにAutodesk 3ds Max、グラフィックボードにFirePro V7900という構成だ。データ保護のためにミラーリングはしているものの、レンダリング用のマシンが1台あるだけで、それも特に手を入れたりしていないという。CGクリエイターの多くはたいていお気に入りのプラグインを使ったりしているものだが、そうしたプラグインも使用しておらず、ソフトもカスタマイズしていないという極めてシンプルな環境となっている。その分システムを構成する1つ1つのコンポーネントは重要になり、おのずと厳選される。

「色とか見え方はCG制作するうえで大切だと思います。特にモニターでの再現性は重要なので、モニター環境とかそれなりにこだわっています。カラーシクなど必要なことはしていますが、画面上で見えているものがそのまま印刷とか最終成果物にはなりません。これは、透過原稿と反射原稿の違いとか印刷など濃度を網点で表現しているという物理的な違いだけでなく、モニターと成果物との間には様々なプロセスがありますから。ただ、作業をしながらイメージが伝わるか見たいところが見えることは必要ですね。モニターで見えていたものが最終的にどのようになるかは経験的にわかりますが、その基準となるモニター環境がきちんとしていることが必要だと思います。」

モニターが再現できる色域はsRGBやAdobe RGB、HDTVなど決められた色空間がある。それをいかに正確に表現できるかはモニターだけでなくグラフィックボードの性能も重要だ。また、最近では8bit以上のデータをハンドリングできるアプリケーションソフトも一般化しており、FirePro V7900を始めとしたグラフィックボードのほか、モニターも対応しつつある。

FirePro™ 3D Graphics Accelerators

Case Study | スタジオエッグマン株式会社

HPやDELLなど主要なワークステーションのメーカーではCADやCG製作者向けとしてFirePro V7900を始めとしたAMD (ATI) のグラフィックボードを搭載したモデルを用意しているものも少なくありません。もちろん、CADやCGソフトがこうしたグラフィックボードをサポートしていることも当然ですが、エンドユーザーが求めるものを用意するのは必然といえよう。

「FirePro V7900をチョイスしたのは、自分で色々探したのではなくてクチコミでいいのがあるよって紹介されたからなのです。作品制作用のマシンも仕事用マシンもFirePro V7900を使っています。先ほど話題になったプラグインとかカスタマイズもそうですが、同じ環境で作業したいですから。」

ハードやソフトのメーカーはOpenGLやDirectXといった技術的な適合で一義的に組み合わせを決めがちだが、それを使うクリエイターはこうした技術的な数値や言葉で表せない何かを求めているものではないだろうか。レンダリングのスピードや技術的な適合は基本事項として、更にその先にあるものはそれを使うクリエイターのツールとして作品のイメージをつかみやすいとか作業性が良いといったことだと思う。FirePro V7900は小坂氏をはじめとしてすでに多くのクリエイターが認めた数少ないグラフィックボードの一つである。



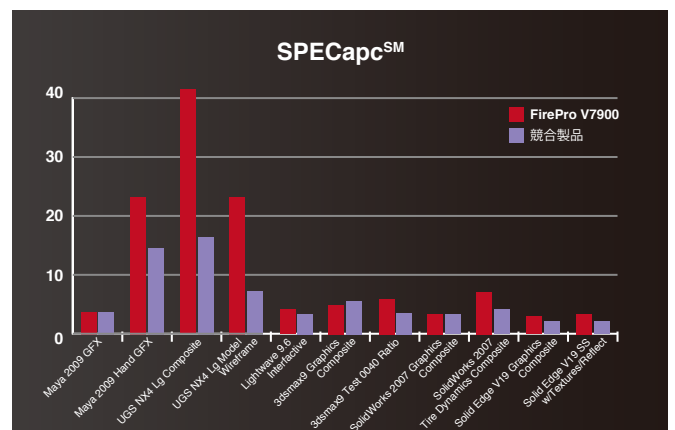
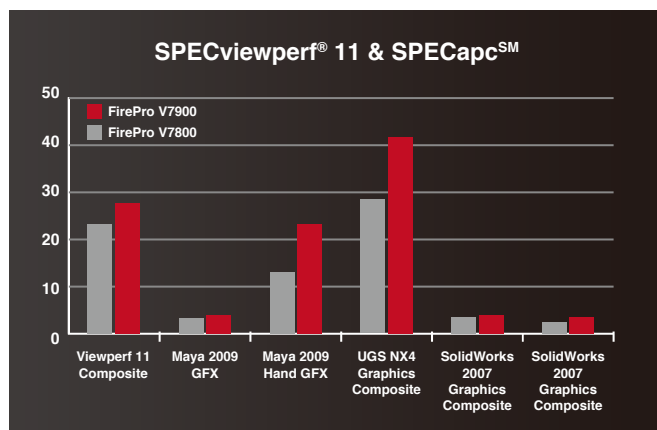
小坂氏が制作した数々の作品。CGとは思えない生々しい作品ばかりだ。写真の画像処理は地味な作業だが、その写真はクライアントがお金をかけて撮影したものであり、合成が必要なものは製品がいかにかそれらしく見えるか、シズル感のようなものを表現するための技術的な手段である。小坂氏の作品が生々しいのはCADのデータを元に単にテクスチャを貼り付けただけでなく、こうした写真や合成の技術をもとにしたクリエイティブ性がなせる技ではないか。



AMD FirePro™ V7900

AMD FirePro™ V7900プロフェッショナルグラフィックスは、他を圧倒するパフォーマンス、最高レベルのビジュアル品質、比類なきマルチディスプレイ機能のすべてをシングルスロット・ソリューションでお届けします。高度なビジュアライゼーション、複雑な複合モデル、大規模なデータセットを扱うプロフェッショナル向けの、卓越したグラフィックス・ソリューションです。

AMD FirePro V7900は驚異的なマルチディスプレイ能力を提供します。AMD Eyefinityテクノロジーを使用して、同時に最大4画面の独立したディスプレイを1枚のグラフィックスボードでサポートします。また、2GBの超高速GDDR5メモリと1280個のストリーム・プロセッサを搭載し、その能力を高めています。



株式会社エキューブ

〒102-0076 東京都千代田区五番町2-4

TEL : 03-3221-5950 FAX : 03-3221-5953

info@acube-corp.com www.acube-corp.com

お客様のご要望に合わせてソリューションをご提案いたします。お気軽にお問い合わせください。

また、ACUBE取り扱い製品はすべて無料貸出可能です。導入ご検討の際は是非ご利用ください。

法人様向け貸出しサービス実施中!

<http://www.acube-corp.com/support/support/trial.html>